



■2016年2月のマンスリーNEWS 第139号

■コラム

■ 2月のアークル

皆さんいかがお過ごしですか？2016年もはや1ヶ月が経ちました。

この間、飲料業界では大きなニュースが発表されました。

皆さんもご存知の通り、ダイドーとキリンの業務提携です。昨年のダイドーの他社との提携のうわさはこれだったのです。資本提携といううわさがありましたが、商品の相互販売の提携ということでした。

内容的には、ダイドーの自販機に「午後の紅茶」が2品、キリンの自販機にダイドーのコーヒーが2品入るということで、どちらもお互いに弱い部分を補いあうスタイルになりました。



自販機を管理するオペレーターにとってはどちらも他メーカーの売れ筋が入り、自販機の売上アップに寄与するのだからいいね、ということになるのでしょうか。

飲料メーカーは各社それぞれ強いブランドを持っています。これらを他社の自販機に入れることで販路が拡大出来る。そして入れるほうのメーカーは自社の自販機のパーマシニアップが期待できるという構図ですが、このようになるのには深い訳があります。

まずコンビニのプライベートブランドの台頭です。今、飲料メーカーは自社ブランドの拡販をしたいのはもちろんなのですが、販売数量を確保するためにはコンビニなどのプライベートブランドを作らなければならないという、2枚腰戦略をとらざる負えなくなっています。こうなるとカテゴリー別の商品としてトップブランドしか生き残れない状況になっているのです。例えばスポーツドリンク。このカテゴリーは「ポカリ」と「アクエリアス」。お茶は「お〜いお茶」「伊右衛門」。紅茶は「午後の紅茶」。というように。

そこへ来て昨今の自販機離れです。昨今、飲料メーカーはどこもパーマシニアップを目指していますが、やはり自社製品だけでは限界があるのです。

他社機への自社ブランドの投入ができれば、簡単な販路拡大です。これによって、ブランド力の無い商品は消えていきます。今回のキリンとダイドーの提携で、ダイドーの「Tiha紅茶」は消滅することになるでしょう。

また今回のような相互販売の提携ではなく、一方的なものは前からありました。ポカリなどはその際たる商品です。大塚は自社機の展開から、手売りと他社機への供給という戦略に変えたようです。たぶんこれは大正解で、自社機にこだわるやり方より賢いかもしれません。

良く考えたら、自販機の特化してきたダイドーはある意味飲料メーカーというよりは、自販機オペレーターと言っていいかもしれません。割り切って考えれば、全国に27万台分の販路を持っているオペレーターで、他社にとってはものすごい魅力のある販路ということになります。

又、私達ダイドーを扱うオペレーターにとっても、白ベン化されたほうが魅力ある自販機になりパーマシニアップに繋がるのでウエルカムなんです。

さてこの動きについて他社はどう見ているのでしょうか？たぶん上位2社はある程度危機感を感じて



いるのではないのでしょうか。

上位2社はブランド力を持っているので、一方的に商品を流すことはあっても、他社商品を自分の自販機に入れることはありえないでしょうから、下位のメーカーが協業して自分達を脅かすのを良しと見ているわけではないはずです。

自販機マーケットの飽和、売上の低迷がまず「商品の相乗り」という形になって表れてきたのですが、今後このような動きはさらに加速すると思われまます。もしかしたら、ダイドーの自販機に「ペプシ」や「お〜いお茶」、「ポカリスエット」や「カルピス」、「トロピカーナ」などが入るなんてことが起きているかもなんてね……………



さて、先月の弊社ですが11月、12月とふるわなかった売上がなぜか1月は戻ってきました。要因は単純に天候なのですが、やはりお正月に天気が良いと人が出、自販機も売れるということなのでしょう。神社の売上も昨年よりもアップでした。

しかし1月は自販機だけが売上が戻ったということではなく、コンビニやスーパーなどの売上も良かったようです。自販機売り上げ不振の根本的な原因が払拭されたわけではありません。

新しい年度に入り、自販機メーカーに今年の自販機出荷の予定状況を聞くと、やはり担当者の顔が曇ります。どうやら各メーカーとも自販機出荷に対してはシビアに対応していくようで、自販機の売上に対して懐疑的な見方をしている感じがします。もちろん、自販機はロケ先ありきなので非常に売れる場所もあります。そういうロケはメーカーも確保したいと考えているようですが、同時に売れないロケを取りたくないという思いもかなり強いのは事実なのです。

自販機出荷がこのようになると、自販機製造メーカーが今後自販機開発に力を入れなくなってくるとい問題もあります。今までは毎年のように自販機を進化させてきました（特に省エネ分野で）。それもある程度落ち着いてくると、新品自販機のニーズがそれほどなくなるので、今後を中古をリニューアルさせながら出来るだけ長い期間自販機を使うというスタイルになっていくでしょう。

例えば、あるメーカーはユニットだけをヒートポンプに改良して、省エネ効果をもった中古機を活用すると聞いています。自販機も間違いなく今までのように、どこへでも新品自販機を設置することはなくなるのです。

さて自販機オペレーションについて少し触れておきたいと思います。

昨年から取り組んでいる、ロス率、売切れ率、アイテム率の毎月の評価がだいふ定着してきました。毎月の会議で各担当者のごとのデータが明確になり、ルートマンごとのフォローの質が簡単にわかるようになってきました。

特に小田原（営）では数値がだんだん安定してきたように思います。

やはり都会マーケットの海老名（営）は交通渋滞などの影響を多少受けるなどがあり、小田原（営）よりも安定感に欠けます。

ただこれは天候のちよつとした変化で一気に変わり



ますので、油断できないものとなります。

2～3月にかけては冬商品の終売春夏商品の投入、切り替えという作業が入ってきます。

特に2月後半に入ると、終売商品コラムを一時的に空コラムにして春夏商品をすぐに投入できる準備をしますので、一時的に商品の種類が少なくなります。1年間で一番売上の厳しい月となりますが、これから暖かくなる季節に対応する大切な準備期間となります。

今春の切り替え方針も既に決まりましたので、その計画を着々と進めていくこととなります。

商品的に少し気になるのは各メーカーとも120円の価格据え置き商品が少なくなっている点です。メーカーの価格を維持したいという気持ちもよくわかりますが、現実的にはコンビニとの競合や他社との競合上、据え置き商品が少なくなるのは厳しいと言わざるおえません。

単純に言うと、それだけ業界が飽和しているということなのでしょう。

そんな2016年春商戦ですが、当社としてはしっかりと基本的な自販機オペレーションを行い、お客様に喜んでもらえる地域オペレーターとしての精進していきますので、今後も皆様よろしくお願ひします。

## ■コラム

### ■先月の売れ筋商品

DYDO売れ筋ベスト5		SUNTORY売れ筋ベスト5		白機売れ筋ベスト5	
1位	新ダイドーブレンドコーヒー	1位	ボス マスターズ微糖	1位	ワンダ モーニングショット
2位	細缶 Mコーヒー	2位	ボス レインボーマウンテン	2位	ファイア 微糖
3位	ブレンド微糖185	3位	ボス 贅沢微糖	3位	リアル (ブラックBC)
4位	無糖珈琲 樽	4位	ボス カフェオレ	4位	ワンダ 金の微糖
5位	デミタスコーヒー	5位	ボス無糖ブラック	5位	THE COFFEビター

## ■コラム

### ■新春セミナー 竹中平蔵氏

#### 楽天セミナー2016



今年も行ってきました。楽天新春セミナー。

年明けから5日連続下落の日経平均で、波乱含みで始まった日本経済ですが、専門家は2016年の経済をどのように見ているのでしょうか？

毎年ですが、このセミナーはその年の経済を見る上で参考になっているというよりは、その時の現状を把握する上で非常に参考になるといった感じです。

数々の専門家の中から常にトップバターのメインゲストが竹中平蔵氏です。竹中氏の場合は政治と絡めながらの説明で、政府の方針と経済のマクロ的な内容なので、必聴と思っています。たぶんそのような人は多くて、今年の講演もものすごい聴衆者が来ていました。

さて早速、今年の講演内容を紹介しましょう。

いよいよ、アベノミクス第2ステージに入りました。新年の株式相場は波乱の幕開けでした。さて今年はどうなるのでしょうか？

まず、1年前の今頃を振り返ってみましょう。そのころは政府や国際機関、シンクタンクは「世界経済はゆるやかに上昇するだろう」と言っていました。政府の1.2%の成長率と言っていました。ただし3つ

のリスクがある。それは中東の地政学的リスク、新興国（特に中国）の景気減退リスク、そしてアメリカの金利引き上げリスクがある。

さて、それでは今年は何？

包括的に言うと、2016年の経済基調はそれほど悪くなく、「ゆるやかに成長するだろう」という見方です。政府の予測は1.7%の成長率と言っています。「ただしリスクがあって、それは中東、新興国、アメリカ金利である。」 ???・・・そうです！今年もまるっきり昨年と同じ事を言っているのです。

私はアベノミクス第2ステージの内容は評価できていると思っています。しかし第1ステージからの残された問題は大きく、現状1.5ステージといった感じでしょう。

また今年前半は今年1年を占う上で重要な出来事があります。1月は宜野湾市長選挙、2月アメリカの大統領予備戦、3月はアメリカのスーパーチューズデー（これも大統領予備戦）。

まずアメリカ金利引き上げ後のこの円高基調の為替・・・

通常のシナリオは日米の金利差で円安基調になるのが普通ですが、今回の中東の混乱（サウジ・イランの問題）などで有事時の安全通貨が買われているのが原因と思われます。



次に中国についてです。

中国は昨年6月12日に株価のピークをつけました。これは1年で株価が2.4倍になっていました。しかしその後大暴落、1ヶ月で30%も下落をし、バブル崩壊。

ここへきて中国政府は元の切り下げを強引に行い、株式市場では株価を一定以上下げないために「サーキットブレーカー」なるものを発動しました。為替は元来マーケットで決まるものであり、株式市場も政府の意向で取引を勝手に止められたのでは投資家もたまりません。

サーキットブレーカーに関しては2日間でそれをはずしました。

中国の中央銀行は中国人民銀行です。人民銀行は政府の機関の一部であり、日本銀行やFRBのように独立機関ではないのです。つまり経済が政府の意思で決まってしまう部分があるのです。不安視されているのは中国政府の経済対応能力なのです。



今回、上海株の下落が世界中で注目されていますが、実は上海株の世界に占める割合はたったの2.3%しかありません。

中国共産党にとっては今年が第13次5カ年計画の1年目になります。最低6.5%の成長率は目指さなければなりません。到達は難しい状況で、そのやり方が問われるでしょう。

振りかえって日本です。

アベノミクスから3年がたち、日本経済はこの3年で確実によくなりました。株価は2.1倍に（ちなみにアメリカは1.4倍、ドイツは1.5倍）。また労働市場も失業率が3.3%をきり、完全雇用失業率を達成しました。完全雇用を達成したのは世界中で日本だけです。また有効求人倍率も約1.3倍に首都圏ではなんと1.7倍です。デフレも克服されつつあります。デフレを見る場合消費者物価上昇率を見ますが、生鮮食料品と燃料費を除かなければなりません。それをコアコア消費者物価指数と言います。

このコアコア消費者物価指数では5年前-1%、今+1%で、5年前から比べれば2%の上昇にはなっているものの目標の2%には届いていないのが現状です。

アベノミクス第1ステージの残された大きな問題は「財政再建の道筋をつける」です。この中を大きな命題が抜本的社会保障改革で、これに関してはまだ結論が出ていません。現状は社会保障という名のもとにムダばお金が使われています。例えば年金で、年金は不必要な人にまで支払われているのです。この年金制度が出来たのが昭和35年でこのころの日本人の平均寿命は66歳でした。現在は男性81、女性88歳です。どう考えてもこの制度が成り立たないのは一目瞭然です。この改革は安倍内閣が参院戦に勝ってからということになるでしょう。

もう1つは「成長戦略」です。岩盤規制撤廃をしこれにはずみをつける必要があります。その1つの農業ですが、今までは農業に企業が進出が出来ませんでした。これを特区を利用してこの規制を取り払っていかうというのです。特区のいちばん最初は兵庫県の養父市でローソンやオリックスなど11の企業が名乗りを上げました。またその次に愛知県の常滑市でも特区申請があり、じょじょに規制が取り払われています。このように特区を利用することになると、キーは首長の能力ということになります。

そして大学の医学部の問題です。この35年間大学の医学部新設はありませんでした。もちろん医師会の反対で自分達のライバルを増やしたくないということなのですが、結果現在日本は先進国の中で人口当たりの医師数が一番少ない国になってしまっています。

今回千葉県成田市に37年ぶりに新しい大学病院が出来ることになりました。これは将来、外国の人に対してのメディカルツーリズムも踏まえた立地戦略であることも間違いありません。

そして今後注目なのが、「コンセッション」です。「コンセッション」とは公共施設の運営を民間に任せるという規制緩和です。まず今決定しているのが仙台空港です。先頃入札があり、東急・前田建設グループがとりました。

この空港の民間運営委託は世界中で数々の実績があり、非常に効果的と評価されています。例えばオーストラリアのある地方空港では大学を誘致し人を集めました。

イギリスのヒースロー空港もコンセッションで運営されているのは有名です。次に関空もコンセッションで運営される予定となっていて、ちなみにオリックス&バンシー（フランスの空港運営会社・ポルトガルの空港など）グループになる予定です。

空港以外でも次々とコンセッションはなされていく予定で、浜松市では水道事業の運営会社を求めています。

先頃の新国立競技場も年間運営費が35億円かかると予想されていますが、これこそコンセッションで民間のノウハウを借りて運営すれば、コンサートやイベントを開催して運営費も賄えると思いますが……。



それから避けられない大きな問題が移民の問題です。日本は今後毎年100万人ずつ人口が減少していきます。人口減少を止めるには移民を考えなければなりません。日本は移民を認めたくないというのが大方の意見です。大きな理由は「犯罪が増える」です。しかしシンガポールなどは人口の37%が移民で、犯罪率は日本よりも少ないのです。要は受け入れ方なのですが、その基礎となる移民法が日本にはありません。

また人口減少に伴って、現在の都道府県制では役所の数が多すぎてムダです。道州制にしたほうが効率的ですがこれには憲法改正が伴います。

現在日本の経済は2つのチャンスがあります。今度のダボス会議で話し合われる予定ですが、第4次産業革命に私達はどうか対応するかといことがあります。第4次産業??これは例えば「Uber」「Airbnb」などのことを指します。ソーシャル ネットワーキング上で繋がった瞬間に友達になりそこでビジネスが発生するのです。これらはものすごい勢いで進化発展 していて、「Uber」などはわずか5年で企業価値が7兆円になっています（トヨタは15兆円）。Airbnbも既に190カ国 でサービスが展開されているのです。

そしていよいよオリンピックへ準備です。リオオリンピック直後に文化スポーツワールドフォーラムが日本で開催され、日本への注目度を高め、オリンピックやラグビーワールドカップを成功に導いていこうというものです。

岡倉天心は「変化こそが唯一の永遠である」という格言を残しました。これまさに真髓で名言であります。

今年の竹中氏の講演はこんな感じでしたが、今年は日経の株価についてほとんど触れなかったのが印象的でした。昨年、一昨年と金融緩和で株価が上がるということは強く言うただけに、なんとなく株価について明言しなかったのが逃げ と感じた人は多かったのではないのでしょうか。

私自身、オリンピックや第4次産業について大きなチャンスを感じるわけではなく、逆に人口減少でのリスクを大きく感じています。5年後の日本に対しては財政不安、経済の落ち込みがあるのでは考えていて、そちらの準備をしたほうがいいのではないのでしょうか。

どーも楽観的になれない自分がいます……。

## ■コラム

### ■激ウマB級グルメ 第83弾

イタリアのマンマの味は…… [トラットリア・](#)

[ダ・テレーサ](#)

無茶苦茶美味いから行ってみたら?と勧められたのが、横浜線中山駅近くの [イタリアン、トラットリア・](#)



ダ・テレーサ。

本格的にイタリアのマンマの味を食べさせてくれるとのこと。

そう聞いたら一度はと思い、今回はじめてランチを食べに……

実は私自身イタリア訪問時に、料理についてはあまり良い思い出がなかったので、本格イタリアンというのに疑心的でした。

さてどんなランチを食べさせてくれるのでしょうか？

ランチには2種類、Aランチ・Bランチ。

前菜・パン・メイン（パスタかピザ）・デザート・ドリンクでAランチ1200円、Bランチ1600円です。

その日のスペシャルパスタが「ムール貝・はまぐり・アサリ・プチトマトのパスタ」ということでそれを注文。連れは「ツナとプチトマトのパスタ」を。

さてお味は……

さすが評判が高いだけあって本格的（イタリアっぽい？）なパスタだと思いました。パスタのゆで加減もちゃんとアルデンテ。そしてオリーブオイルもたっぷりと、塩分もしっかり……。

特に貝のパスタはかなりの量の貝が入っていて良くだしが出ている。美味しい！

でもね……

もしかしたら本格的なパスタって私みたいな日本人は本当に好きなのかな？なんて自問してしまうのです。



基本的に本格的イタリアンってやたらオリーブオイルが多くないですかね？それから塩分もちょっと多くないですかね？

そんな風に思う人は多くないでしょうか？

私のような昭和世代は喫茶店スパゲッティで育ってきているので、オリーブオイルたっぷりのパスタにどうも抵抗感があるんですよ。

このような本格的なイタリアンレストランが繁盛するということは、日本人の舌も相当進化しているんだろうなんて、思っちゃったりするのです。

夜はいろいろなアラカルトの料理もあるようで相当の人気店のようです。

本格的イタリアンが好きな人は是非一度試したらいいかと思います。

私の結論……

イタリアのマンマの味は日本のマンマの味とは大違い……（当たり前か）



すけ

もう10年以上も前になるかな。石田ゆうすけ氏の「世界9万5000km自転車ひとり旅」を読んだのは・・・



その当時はこんな過酷なそしてすごい旅に憧れる自分がいました。

そして書店でふっと目にした続編。

世界自転車ひとり旅のエッセイはまだまだあるようです。

石田氏の本は国内編を含め4冊あるようなのですが、だまって残り3冊お買い上げです。

そのシリーズ第2弾の「いちばん危険なトイレといちばんの星空」では彼の感じる「世界で一番」が書かれています。

皆さんもご存知の通り、基本的に好奇心旺盛の私としては是非参考にしたいところなんです。旅が大好き、椎名誠が大好き、アウトドアが大好きなんて人は石田氏の本はお薦めです。

それでは少し本の内容を紹介したいと思います。

**世界一の景観** バランカ・デル・コブレ (メキシコ)

**世界一の瀑布** てっぺんから見るヴィクトリアフォール (アフリカ)

**世界一の遺跡** 朝もやから晴れて全景が見えてくるティカル (グアテマラ)

**メシのうまい国トップ3**

- 1位 中国
- 2位 メキシコ
- 3位 ベトナム

**うまいスイーツ** ドイツのケーキ、メキシコのアイスクャンディー、ベトナムのチャー

**世界一美人の多い国** エストニア

**美しく印象的な街** フィレンツェ (イタリア)、ブラハ (ウズベキスタン)、サンフランシスコ、グアナファト・サンクリストバルデカサス (メキシコ)、キト (エクアドル)、タリン (エストニア)、サラール (フランス) エディンバラ (スコットランド)、コッツウォルズ地方 (イングランド)、バルセロナ・グラナダ・アンダルシアの村々 (スペイン)、ドブログニク (クロアチア)、ラバトの旧市街 (モロッコ)、ケープタウン (南アフリカ)、エルサレム (イスラエル)、バラシナ・アヨディア (インド)、カトマンズ (ネパール)、ホイアン (ベトナム)

**好きな場所** ブラックアフリカ、アラスカ・カナダのユーコン準州、メキシコ、グアテマラ、パタゴニア、バルト3国、アイルランド、スコットランド、インド、ベトナム

**世界一すごいとこ**

- 湖：ペイト湖 (カナディアンロッキー)
- 山：フィッツロイ (パタゴニア)、キリマンジャロ
- 海：ザンジバル島 (タンザニア)
- 砂漠：ソススフレイ (ナミビア・ナミブ砂漠)

世界はまだ見ぬ場所がたくさんあるんですね。  
いつか見てみたいものだな～。



ベトナムのチェー



ナミブ砂漠

■コラム

■アークルの人達ブログ・絶好調連載中です!

ただいまブログは7名が更新  
中です。

- ・ 熱血小田原所長日記
- ・ 販促部次長の成長日記
- ・ 販促課マネージャーの日記
- ・ 海老名の所長ブログ
- ・ 開発道
- ・ 開発リーダーのブログ
- ・ 小田原チーフの奮闘ブログ



下曾我の梅 春の息吹を感じさせます

今月は以上です。又、来月号も宜しくお願ひします。

■2016年度のマンスリーNEWS

→	2016.1	アークル マンスリーNEWS
---	--------	----------------

■マンスリーNEWSアーカイブ

→	最新	マンスリーNEWSトップページ
→	2015年度	2015年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2014年度	2014年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2013年度	2013年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2012年度	2012年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2011年度	2011年のマンスリーNEWSアーカイブ



<a href="#">→</a>	2010年度	<a href="#">2010年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2009年度	<a href="#">2009年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2008年度	<a href="#">2008年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2007年度	<a href="#">2007年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2006年度	<a href="#">2006年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2005年度	<a href="#">2005年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2004年度	<a href="#">2004年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	番外編	<a href="#">マンスリーレポート番外編</a>

© Copyright 2008 ARUCRU co.,ltd All rights reserved.

